



初出荷を祝う出発式で生産者代表としてPR

新澤 忍さん (43)

[果樹農家]

縁人

VOL.46

MINAMISATSUMA ENGINE

「昔は農業が好きではなかった。でも、今は果樹栽培が楽しいー」
現在、加世田津貫地区で温州みかんやハウスきんかんを栽培している新澤さんは、はにかんだ笑顔を見せます。

県外で美容師として働いていた約13年前、母親の病気をきっかけに、当時両親が営んでいた農業を手伝うためUターン。当時は農業は嫌でやりたくなかったそうですが、手伝っていくうち徐々に果樹栽培の面白さに気付いていったと言います。

新澤さんは「最初の頃は栽培方法に関して父親とぶつかることもしばしば」と振り返ります。昔ながらの栽培方法を続ける父親と新しい技術や方法などを取り入れようとする二人の間で栽培がうまくいかないこともあり、収穫時期になると口喧嘩ばかりだったそうです。現在はJAや南薩地域振興局などの指導により、うまくいかなかった原因が特定されることで収量も安定し、親子で協力して栽培を行っているように、「今は果樹栽培が本当に楽しい」と話します。



特に新澤さんが栽培に力を入れている「南さつまのハウスきんかん」は、平成17年に「かごしまブランド」の産地指定を受け、さらに同年「かごしまの農林水産物認証制度」の認証も受けました。糖度が16度以上、大きさがMサイズ以上など、特定の基準をクリアしたものは「きんかん春姫」として東京や大阪に出荷され、強い甘みと酸味の少なさに加え、そのまま皮ごと食べられることから、市場の評価も高く人気です。

新澤さんは「きんかんは、ひと昔前の苦い・すっぱいというイメージで食べず嫌いの人もいると思う。とても甘く、紅乗りの良い高品質なものに仕上がっているの、是非一度食べて欲しい」と、自慢のきんかんの美味しさに自信を見せていました。

南さつま市に住む人、働く人、生き生きと活動している人を、南さつま市の輝く原動力（エンジン）としてご紹介します。